

令和 7 年度 岡山県立勝山高等学校
第 2 回 学校運営協議会

日時：令和 7 年 1 1 月 1 1 日（火）

1 5 : 0 0 ~ 1 6 : 4 5

場所：会議室

(1) 開会

(2) 校長挨拶

全国募集を行うにあたり課題となっている金・土・日曜日および祝日の閉寮に関して、岡山県教育委員会から令和 8 年度より寄宿舎補助員を一般の方から採用し、祝休日の舎監に充てる旨の通知があった。寄宿舎補助員の公募に関して委員の方々にも協力をお願いできればと思う。

(3) 授業参観

(4) 学校経営計画中間評価について

各課・年次説明

教務課長

授業力向上のための校内研修に力を注いできた。学期ごとに、講演・指導案検討・研究授業のサイクルを回す形を取った。1 学期は「生徒に身につけさせたい資質・能力の向上」、2 学期は「授業評価の在り方」をテーマとして研修を行った。広報活動においては、勝高 Voice やホームページの更新などの年間計画を作成した。これにより、広報活動を計画的に実施することができた。

進路課長

授業力・進路指導力向上を目指した研修への参加を促した。有料の教員向け研修も参加者の枠を増やした。すでに多くの教員が 3 回以上の研修参加をしており、教員の意識の変化も見られる。学力向上については、外部模試の結果を指標としている。7 月の進研模試では、1 年生の B 2 ゾーン（地方国公立大レベル）、2・3 年生の A 2 ゾーン（岡山大をはじめとするブロック大レベル）は達成できた。就職希望者は、8 名のうち 7 名が内定している。ハローワークの職員を招いて、求人票の見方等の話を伺うなどの就職サポートも行った。夢現プロジェクト（校外研修や課題研究）は予定通りに進んでいる。N I E（新聞教育）タイムは、進路実現に役立ったと、卒業生からも好評であったので、次年度以降も継続していきたい。

生徒課長

ボランティアについては、参加した生徒の成長を評価の指標としている。ここまでのアンケート結果から、生徒の意識の変容が見られている。ボランティア担当者の事前指導や事後指導の賜物ともいえる SNS による情報発信では、今年度新たにリール動画（期間限定の動画）を配信した。閲覧数も増えてきている印象である。

厚生課長

健康・安全教育の充実を目指して講演会等を企画した。生徒が自分自身を大切にし

ようとする意識は見られる。ほけんだよりや防災新聞なども発行できた。

主幹教諭

1 年次生のコース選択の際には、生徒によっては複数回面談を行っている。

2 年次生は、大学進学後のミスマッチを減らすため、オープンキャンパスの積極的な参加を促したが、十分な参加には至らなかった。

3 年次生は、進路決定者も複数いるが、年次団全体で進路未決定者をサポートしていく。

質問・意見交換

A 委員

授業参観から、生徒が楽しそうに活動している姿が印象に残った。勝山高校が抱える最も大きな課題は何なのか。大学進学に力を入れていくのか。

副校長

生徒数の問題が大きい。進学・就職実績をアピールできればと考えている。全年次の教員が、3 年次生の大学推薦入試の指導にあたり、学校全体でサポートしている。また、オーストラリア研修は他校でもあるが、費用が格安なのは真庭市内高校だけである。部活動にも力を入れている。硬式野球部やサッカー部なども、中学校と一緒に活動することが多い。部活動ではないが、空手や水泳で活躍している生徒もいる。

進路課長

進学については、入学当初から多くの生徒が大学進学を希望しているため、その期待に応えたい。それが本校の使命だと捉えている。一方で、就職や専門学校を志望する生徒にも、個別に丁寧に指導にあたるようにしている。

A 委員

全国的に人口減少が進む中で、岡山県北地域以外からも呼び込めるような魅力発信もあってよいのではないか。

B 委員

オーストラリア研修を通じた様々な発表などの経験が生徒の成長につながっている。生徒一人ひとりの力や個性を見て、役割を与えたりしてくれているのが素晴らしい。このような勝山高校の魅力をどれだけ発信できるかが大切である。授業研修など、先生方自身も時代に合わせて変わろうとしている姿が感じられる。

C 委員

校内授業研修は、年間を通じた計画的な実施ができていて良い。同一教科間で授業を積極的に見せ合うことも大切である。また、生徒に問題行動はないようだが、校内でいじめなどはないという認識で良いか。

生徒課長

いじめについては、年間 2 回のアンケートを行っている。アンケート結果によっては即時面談をするようにしている。近年、転学者が以前と比べて減少傾向にある。

C 委員

中学校とのつながりをより強くしてもらいたい。高校再編について、学校の魅力化に加えて、休業日の舎監の配置が必要である。これについて協力できることがあれば協力したい。

D 委員

進路実現に向けて、高校での活動を通して何を学んだのかが大切である。自分になりたい職業の大変な部分をどれだけ見てきたかということである。うまく指導をすれば、生徒が自分で考えながら活動に参加するようになる。質問だが、総合教育センターと連携したICT教育とは何か。高等専門学校との連携とは何か。学習評価についてはどのように行っているのか。また、大学の説明会は、県外であればオンラインでも参加できるので活用してほしい。

校長

総合教育センターとの連携については、夏季補習期間に、県の遠隔システムを活用した遠隔授業を実施した。

主幹教諭

高等専門学校との連携については、サイエンスDX部の活動の一環で、津山高専の先生を招いてドローンを用いた活動を行っている。

教務課長

学習評価の在り方については、現在も研究中である。

進路課長

大学の説明会については、県外の大学まで足を運ぶと、大学の雰囲気などもわかるため、進路指導に生かせるという利点もある。

E 委員

来春の入学志望者が大きな関心である。特に、真庭市内の中学生がどれだけ勝山高校を選んでくれるかにかかっている。今日の授業参観では、本当に生徒が生き生きと活動していた。そのような姿を、中学生の保護者に発信できればよい。勝山高校が今後長く生き残っていくために、学校の魅力を明確化できるように努めてもらいたい。どのあたりを重点化して教育の特色を高めるのかを見極めることが大切である。

C 委員

久世のバドミントンクラブが、勝山高校と合同練習を行ったが、これは非常によい取り組みであった。このような活動を積極的に行っていくべきである。

(5) 協議

(6) その他

(7) 閉会